

# 水産資源（マグロ）調査\*

渡辺勇二郎

## 目 的

本調査は遠洋水産研究所の委託により、近海マグロ延縄漁船の水揚げ港である勝浦港に入港するマグロ延縄船より、マグロ資源研究のための基礎資料を収集することを目的とする。

## 方 法

昭和63年度水産資源（マグロ）委託調査要項（陸上）に基づき調査を行った。勝浦港に入港するマグロ延縄漁船のうち「漁獲成績報告書」が提出されない20トン未満の小型マグロ延縄漁船（以下19トン型船）のみ次の項目を調査した。

- 1) 船名、トン数、許可番号、今航海での第1回と最終回の操業年月日、操業回数、水揚げ年月日、出港港名、入港港名と年月日。
- 2) ここでは、これらから得た資料をもとに入港隻数を月別、県別に整理した。

## 結 果

1988年4～89年3月に勝浦港に入港したマグロ延縄船は前年度より302隻多い1,360隻であり、うち19トン型船は1,031隻であった。調査は19トン型船を対象に308隻実施し、結果を「マグロ漁業漁況調査票」に記入し、魚種と魚体組成算出に必要な「単価帳」とともに遠洋水産研究所に報告した。

勝浦港に入港したマグロ延縄漁船は1,360隻の船籍は13都県であり、うち三重県船443隻(33%)、大分県船296隻(22%)、高知県船251隻(18%)、和歌山県船232隻(17%)、徳島県船66隻(5%)とこの5県で入港船の95%を占めた。

19トン型マグロ延縄漁船1,031隻のうち三重県船425隻(41%)、高知県船222隻(21%)、和歌山県船207隻(20%)、大分県船99隻(10%)とこの4県で入港19トン型船の92%を占める。この4県の入港隻数の経月変化を図1に示した。冬～春期に勝浦港に近い紀南海域に漁場が形成されているため4、5月および12月～翌3月の6ヶ月間には勝浦港への入港船隻数は年間のその82%であり、6月～11月は18%にすぎない。この時期には各県船とも入港隻数が減少するが、特に三重県船はこの期間カツオ漁に従事する船が多いため勝浦港への入港隻数の減少が著しい。

20トン以上のマグロ延縄漁船の入港隻数は329隻、4月～11月は1ヶ月に20～26隻、12月～3月は32～39隻で19トン型船のような大きな変動はみられない。県別にみると、大分県船197隻(60%)、徳島県船58隻(18%)、高知県船29隻(9%)、和歌山県船25隻(8%)、三重県船18隻(5%)であった。

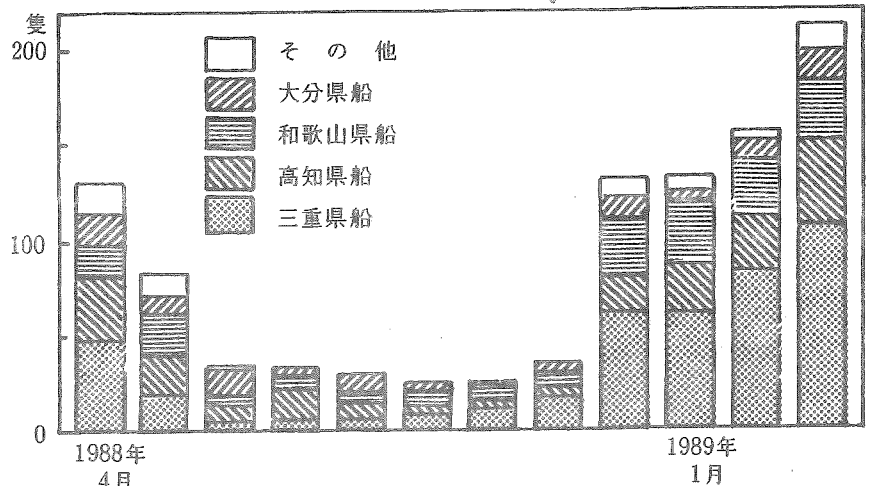


図1 勝浦港に入港した19トン型マグロ延縄船の隻数

\* 漁業資源調査事業費による。